

平成28年度 第2回飛騨神岡高等学校
地域と共に活力ある学校づくり推進協議会 議事要旨

| | |
|-------------------------------|--|
| 日 時 | 平成28年10月18日(火) 10:00~12:10 |
| 場 所 | 飛騨神岡高校 ゼミナール室 |
| 出席者 (敬称略、 委員名は 50音順) | <p>(委員)</p> <p>上野 峻 飛騨市企画部企画課 牛丸 昌弘 神岡鉱業株式会社 常務取締役 大前 孝 飛騨神岡高等学校育友会 会長 沖畑 康子 飛騨市立神岡中学校 校長 上葛 健介 社会福祉法人神東会 事務局長(飛騨神サポーター) 菊田 昇司 北陸電力株式会社神岡営業所 所長 小西 清明 飛騨市立山之村小中学校 校長 小林 時造 飛騨市立神岡小学校 校長 下田 章 有限会社カワデン 代表取締役(飛騨神サポーター) 田口 由加子 NPO法人 神岡・町づくりネットワークレールマウンテンバイク事務局 都竹 淳也 飛騨市長 出井 浩樹 牛丸石油株式会社 代表取締役(学校評議員) 中林 裕 飛騨市神岡振興事務所 所長 布俣 正也 岐阜県議会議員 堀之上 亮一 飛騨市企画部企画課 水上 雅廣 飛騨市企画部 部長 山口 郁夫 山口鉄工所 代表取締役(飛騨神サポーター) 山本 幸一 飛騨市教育委員会 教育長 渡邊 登紀夫 飛騨市教育委員会 学校教育課長</p> <p>(高校側)</p> <p>石田 達也 校長 河渡 正史 教頭 野村 宏治 事務長 宮垣 雅巳 教務主任 中田 和美 進路指導主事 松本 正人 事業担当 楯 幸司 事業担当 中村 英樹 事業担当</p> |

議事概要

1 高校の現状について

- ・ 飛騨神サポーターの協力で、ロボットプロレスの全国イベントも高校の文化祭も大盛況だった。
- ・ 中学生一日入学では、昨年度より30名多い中学生が参加した。
- ・ 東京大学宇宙線研究所の大学院生は、飛騨神岡高校の生徒について、「純粋でよい子たち」と話していた。
- ・ 文化祭を見ても、生徒たちの学校生活が充実している様子がよくわかる。
- ・ 協議会のメンバーで他県の学校視察を実施した。視察先の高校の後援会長の熱意に感動したので、ぜひ会長を飛騨に招いて講演会等を計画したい。
- ・ 子供たちの学力が非常に伸びていて、教員と生徒の良好な関係がよくわかる。より一層、中学生が魅力を感じるような授業、生徒が自ら参加できる能動的な授業の充実を望みたい。
- ・ 寮があることは高校の大きな魅力である。

2 高校の活性化について

- ・ 飛騨神岡高校を単独校として維持することは市政のテーマである。高校の魅力を高めるために飛騨市でも予算をつけている。今後も生徒や教員から「是非やりたい」という声をもらえれば、市としてスピーディにバックアップしたい。
- ・ 飛騨市ではスクールバスについて、試算検討しているところである。
- ・ ふるさと納税等を参考に、飛騨神岡高校のための寄付金集めの仕組みを構築したい。
- ・ 県市連携型運営高校のような高校の形態について、検討してはどうか。
- ・ 飛騨神岡高校と吉城高校の生徒が飛騨市の政策について話し合い、市議会で提案してはどうか。
- ・ 全国に発信できる飛騨神岡高校の強みについて、協議会で見極めることが重要ではないか。その強みを目当てに、他県から飛騨神岡高校へやってくる生徒もいるかもしれない。
- ・ 県内の高校には、部員が集まらず困っている部活動が少なからずあるのではないか。そうした部活動同士がお互いに協力し、部活動を活性化させるという観点から、学校間連携を進めてはどうか。
- ・ 東京大学宇宙線研究所との連携を継続的に行いたい。東京大学だけでなくカムランド（カミオカンデの跡地につくられた反ニュートリノ検出器）の東北大学等とも連携したらどうか。また、進学実績は高校の大きな魅力なので、より一層伸ばしてほしい。
- ・ 飛騨学区の生徒減少を考慮し、吉城高校とあわせて、長い目で見た高校活性化の検討も必要である。
- ・ 飛騨市はもちろんであるが、高原郷の高山市上宝町も巻き込んで飛騨神岡高校の活性化を検討してほしい。
- ・ 例えば文芸部は、毎日防災無線で短歌を一首流してはどうか。短歌や俳句を使って卒業式を工夫できると素晴らしい。
- ・ 地域のお年寄りを招いて、茶道部がお茶を点て、ロボット部のロボットがそのお茶を運んでおもてなしすると素晴らしい。
- ・ 生徒が作る Facebook のページで、生徒たちが自ら高校の魅力を情報発信したらどうか。

3 積極的な情報発信について

- 昨年度は1月の学校評議員会で、3年生の生徒から高校生活の報告を聞き感動した。学校評議員会とは別に、こうした場を設けることができれば、子どもたちが大きく成長した姿が地域の方によくわかり、小中学生も憧れの思いを抱くのではないか。
- 小中学生の保護者から、「飛騨神岡高校は、数年後にはどうなるのか」という質問をよくいただく。こうしたことへの説明やPRを積極的に行う必要がある。
- 地元が大切にしている学校だということや、少人数で一人一人の生徒が大切にされているということについて、中学生にしっかり伝えることで、志望者増が期待できるのではないか。
- ロボット部等の部活動の発表は素晴らしい。小中学生対象に広く行くと効果的ではないか。
- 県内唯一の登山部を大いにアピールしたい。
- 飛騨市として、市内2校（飛騨神岡高校、吉城高校）のPRパンフレットをつくる予定がある。